

備陽史探訪の会主催

# ぶら<sup>○</sup>探訪

その拾壺 水呑の古往還を歩く

講師 備陽史探訪の会田口義之会長

平成25(2013)年4月6日【土】午前9時スタート



## 主な見どころ

- 1、新幹線の遺跡（駅のホーム跡、鉄橋跡）
- 2、法華一乗屋敷跡
- 3、日蓮宗の遺跡（妙頭寺、重頭寺、法界石など）

## 「ラッキョ自動車」 韮鉄道の開通と林半助

「韮鉄のラッキョ自動車はのう、馬力がのうてのう、水呑の三分坂しゃあ、わしらが降りて推したもんよう」

福山と韮を結んだ「韮鉄道」は、昭和二十九年（一九五四）に廃止となり、同三十年生れの私は残念ながら名物の「ラッキョ自動車」に乗る機会はありませんでしたが、少年時代、まだあちこちに残っていた汽車の残骸や芦田川にかかっていた鉄橋の橋脚など、親たちの昔話と共に鮮明に思い出されます。

明治二十四年（一八九一）九月、山陽鉄道（現山陽本線）が福山まで開通すると、まず問題となったのが、福山・韮間の鉄道の建設です。

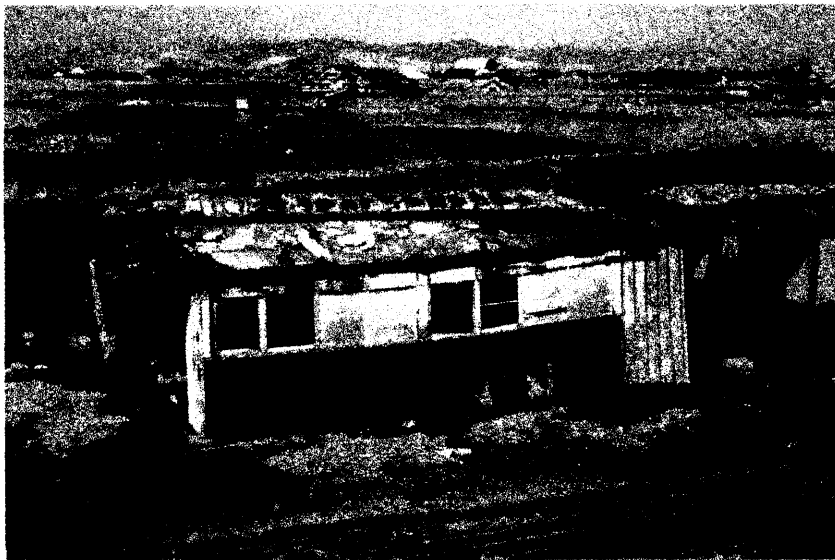
「韮は全く福山の門戸に当たって」両者の交通をより便利にするため、鉄道の建設が急務である（福山市史下巻）というのです。

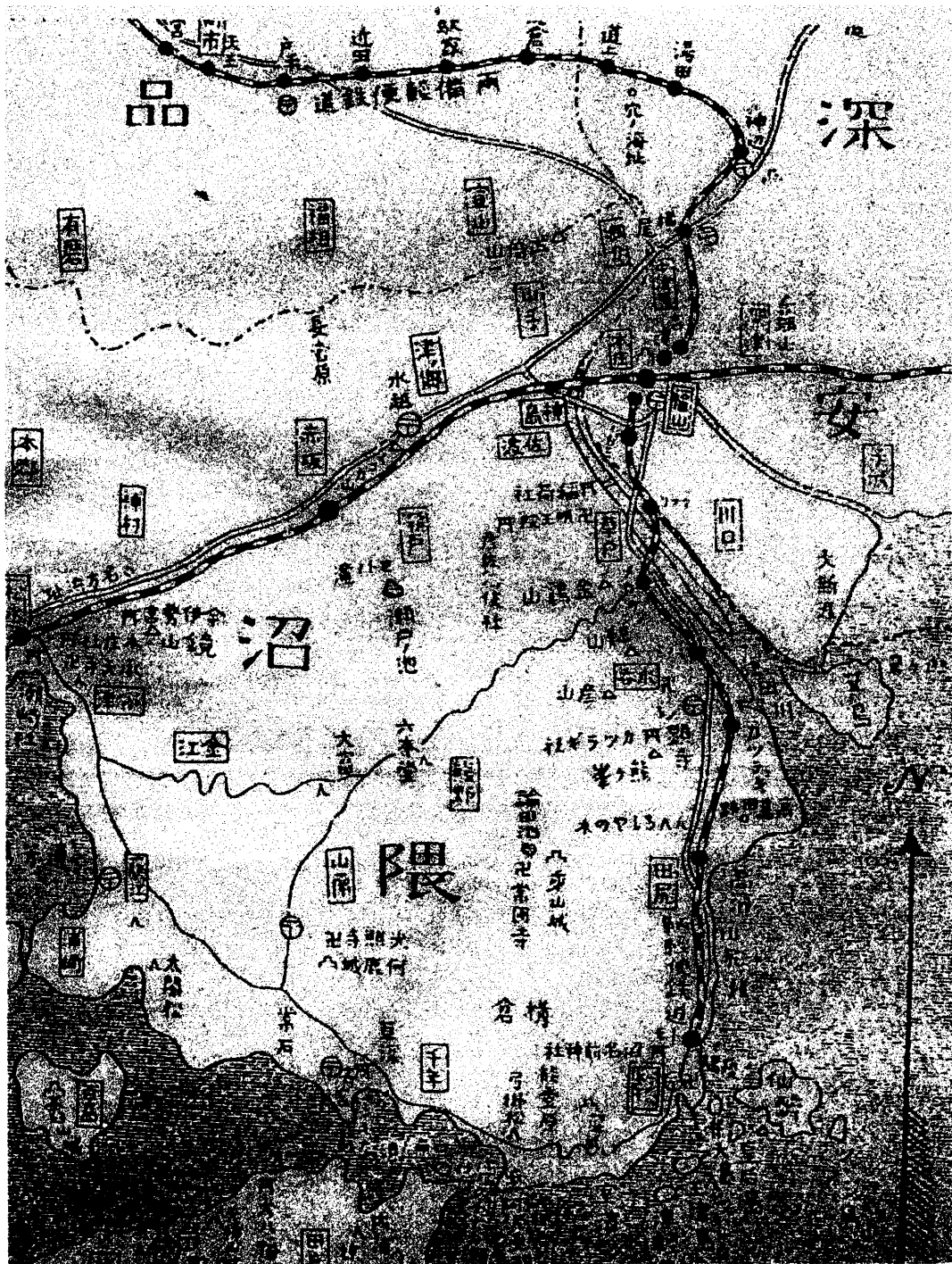
明治二十九年（一八九六）四月、前にご紹介した井上角五郎など四十四人が発起人となって「韮鉄道株式会社」の設立申請が行われましたが、この企ては、日清、日露の戦争によっていったん挫折の憂目を見ました。

再び計画が軌道に乗ったのは、明治四十二年（一九〇九）六月、韮町で地元の有志によって「韮交通機関期成同盟会」が結成されてからで、翌年九月「韮軽便鉄道」として政府の免許が下りました。以後四年の歳月をかけて大正三年（一九一四）四月十二日、ようやく全線開通の運びとなりました。

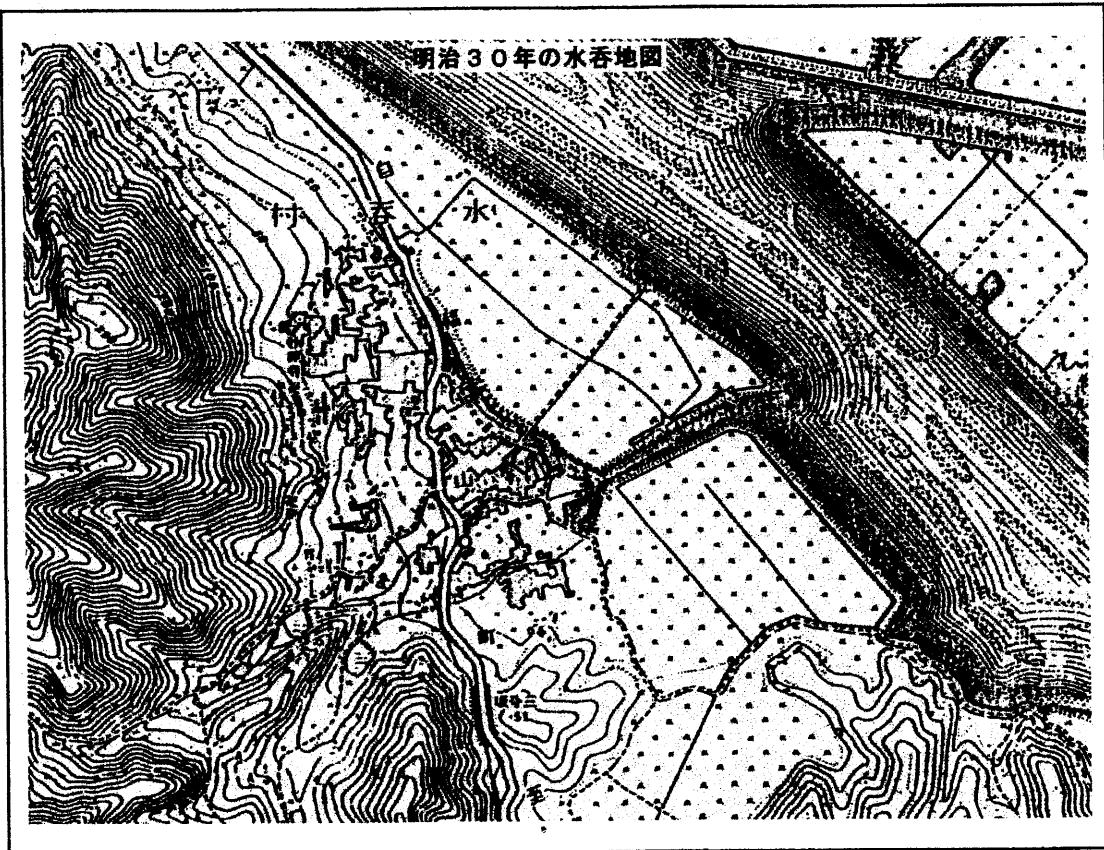
この韮軽便鉄道（韮鉄）の開通にあたって忘れてならないのは、韮鉄初代社長となつた林半助の活躍です。彼は、明治元年（一八六八）、府中市高木町の徳永麦右エ門の三男として生まれ、長じて婿養子として韮の豪商林家に入り二代目半助を襲名。韮鉄の敷設計画には当初より発起人として名を連ね、難航した土地買収や資金調達に東奔西走し、昭和三年（一九二八）六三歳で亡くなるまで、韮鉄の運営や地元韮港の発展に力を尽くしました。（田口義之「備後ゆかりの歴史人物伝」福山リビング新聞社刊より）

### 水呑の三新田に放置されていた韮鉄の客車





韮軽便鉄道と両備軽便鉄道の路線図



# 主な見学場所

- ①葛城駅跡 大正二年福山鞆間を鞆軽便鉄道が開通、その際葛城駅も新設された。機関車の煙突の形が「らっきょう」に似ていたことからラッキョウ汽車と呼ばれた。
- ②鞆軽便鉄道鉄橋跡 昭和29年に廃線となった軽便鉄道の鉄橋の橋脚が残る
- ③啓蒙所建物 啓蒙所の建物が移建されて残っている。
- ④下の森 江戸時代以前からの古社。同社地には数本の巨木が亭々と聳え古社の風格がある。正保四年（1647）疫神畑15歩があった。同所には松尾神社・平野神社・妙顕神社が合祀されている。
- ⑤刀鍛冶跡 鍛冶屋地名発祥の地。鎌倉時代末から刀工三原正家の子息法華一乗妙性が作刀に励んだ土地、同地には一乗が使用していたと伝えられた鞆石が残されている。
- ⑥辻堂跡 通称の地名常泉寺。鞆・福山旧県道拡張工事のため、内務省が昭和八年に同地を買収。辻堂の創立年代は江戸時代前期、再建は元禄二年（1689）に鍛冶屋講中が行なっている。辻堂には観音が祀られ再建棟札とともに八王子社に保管されている。辻堂の周囲には、南西に井戸があり、西に法界塔（妙顕寺墓地に移転）が立ち、後方に紅梅の大木と数体の野佛が並んでいた。
- ⑦常泉寺跡 戦国時代からの浄土宗寺院跡、元和六年（1620）に鞆町関浜に移転した寺院で、現在の海宝山浄泉寺で朝鮮通信使が宿泊した寺として知られている。
- ⑧庄屋倉田家 江戸時代後期の水呑村庄屋、水呑の歴史をしるした検地帳等水呑役場に伝えられた。文化三年正月備後測量の際倉田家に伊能忠敬一行が宿泊。
- ⑨暁部隊跡 昭和二十年福山歩兵41連隊は全軍戦地に出陣。代わって広島から船舶機関砲連隊と船舶砲兵第一連隊の暁2953部隊が来福、鍛冶屋にも船舶砲兵連隊の一支隊が配備され宿泊していた。

⑩井上利八邸跡 井上利八は県会議員となり議長を務め、さらに衆議院議員にも当選した。晩年は政界を退き実業家となる。靱鉄道の専務となり同社の発展に尽力した。昭和十年屋敷と金五千元を水呑村に寄付して広島市に移る。

⑪法界碑 石碑の総高は約四沓の角柱石、題目は日像門流独特の「波振り題目」が書かれている。髭先が天に向かって伸びる珍しい書体で、筆者は京都妙顕寺四十七世の日栖である。向かって右側に建立由来、左側に盛雨祈瑞の下に「君賀代農 民を恵ミ亭 久方能 雲與梨傳う 法洒雨可那」の和歌が彫り込まれている。由来は安政三年（1856）の大旱魃に、大川下新田の堤防一本松の大木に重顕寺の曼荼羅本尊（日像筆）を掛けて、重顕寺の日迅上人と村民が祈雨の修法を行なったところ、髓雨に恵まれた事から建碑された。石工は靱の藤原文造作

⑫大法界碑 総高約6沓の自然石の石塔。天保四年（1833）三月。箕島石

⑬妙顕寺 江戸時代福山藩日蓮宗寺院の中で寺格が高い寺であった。妙政寺・常国寺・妙顕寺三ヶ寺の住職を御前様と敬称していた。寺の裏北側には、元鍛冶屋町内の辻堂脇に立っていた法界塔が移されている。法界塔が像立された当時の銘文は削り取られているが、戦前の史料に依ると、日蓮の五百年遠忌事業として建立されており、天明元年（1781）十月十三日の陰刻記録があった。裏面に句碑があり、「五国年や 雲之野山毛 帰り花」。他に石造文化財が基地に多く散在している。第二次大戦中は大阪市の野田国民学校五年の男子生徒が疎開し、水呑国民学校に通っていた。

⑭松室神社 元禄四年（1691）八月に創建。妙顕寺日潤の曼荼羅本尊を御神体としている。元禄頃の記録、支配は妙顕寺と太左衛門、社地は三畝、社は三間三間。同神社に伝えられた銅製の鰐口は外径16cm厚さ5.8cmあり、「かちや村 三十五人。年号不詳 八月吉日」とあり、中世の水呑の地名を伝えているようである。

⑮善住寺 妙顕寺重兼が永正九年（1512）に創立。

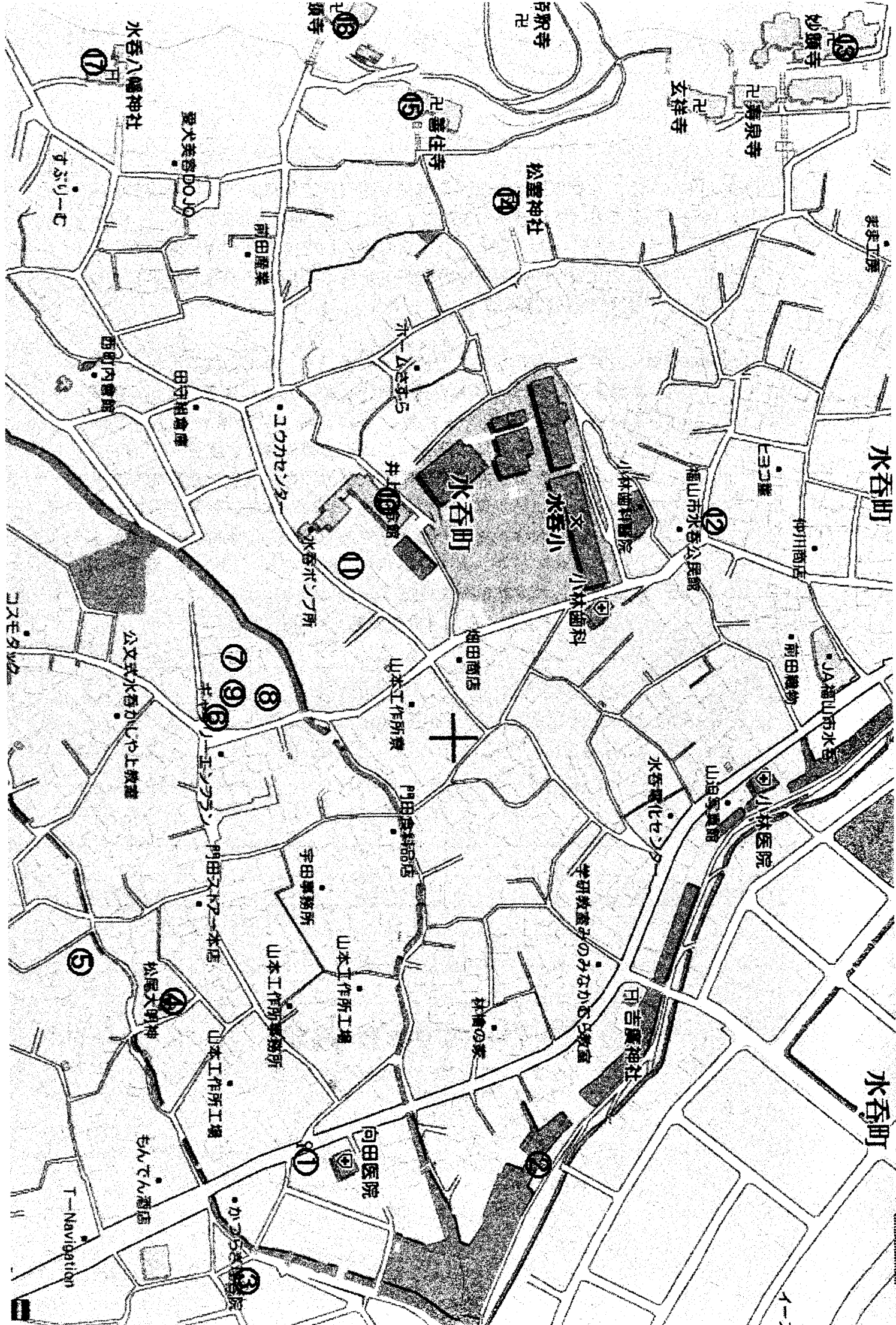
⑩重顯寺 古くは真言宗寺院、真言僧戒善院日行は師の洛西真經寺実賢が日像の教化で日蓮宗に改宗した時、実賢に続いて応長元年（1311）に日蓮宗寺院に改宗した。広島県に於ける日蓮宗最古の寺院。第二次大戦中に大阪市の野田国民学校六年の女子生徒が疎開し、水呑国民学校に通っていた。

⑪水呑八幡宮 瀬戸町の長和福居八幡宮の分霊を祀る。福居八幡宮は創立を承和元年（834）に石清水八幡宮から勧請したと伝えているが、根拠ある史料は何も伝えられていない。福居八幡宮の永禄十三年（1570）八月十五日の祭礼に、氏子の間で争いが発生し、神宝の御幣を奪った者が志田原の叫び八幡宮に運び、次の者が御幣を洗谷の一本木にまで奪ってのがれた。後に一本木に社殿を造営して祀ったのが水呑八幡宮の始まりである。同所は水呑の中心部から大きく外れて不便であった事から、慶安四年（1651）に場所を現在地に遷して造営を行なった。

（以上、小林定一著「水呑の史跡めぐり」より）

メモ

 <b>備陽史探訪の会 事務局</b>
〒720 - 0824 福山市多治米町5 - 19 - 8
TEL&FAX 084 - 953 - 6157
E-メール info@bingo-history.net
公式ホームページ
<a href="http://bingo-history.net">http://bingo-history.net</a>



水香町

水香町

妙顯寺

舞泉寺

女祥寺

百釈寺

松聖神社

龍善住寺

龍善寺

水香八幡神社

すずりー

愛犬美容DOJO

前田産業

西町内書路

田守組倉庫

コウカセンター

ホームセンター

井上ビル

水香ボウソ所

水香町

水香小

小林歯科

福山市水香公民館

エコー館

柳川商店

前田農物

JA福山市水香

畑田商店

山本工作所兼

水香電化センター

小林医院

山田実業館

公文式水香かじや上教室

山本工作所

門田製菓店

学研教室のみなかびら教室

印吉廣神社

宇田事務所

山本工作所工場

山本工作所事務所

林権の家

松尾大明神

山本工作所工場

向田医院

もんでん商店

かつらビル

T-NAVIGATION